

宇宙基本計画工程表改訂に向けた重点事項について

現行の宇宙基本計画工程表(平成 30 年 12 月宇宙開発戦略本部決定)における宇宙科学・探査小委員会関連の記載は以下のとおり。

宇宙科学・探査(工程表 25)

[2019 年度以降の取組]

- 宇宙科学・探査の着実な実施に向け、プログラム化を進めるとともに、フロントローディング(開発スケジュール遅延やコスト増を招く可能性のあるキー技術について一定の資源を投入して事前に実証を行う)を実施する。
- はやぶさ 2 について、小惑星リュウグウでのタッチダウン・サンプルリターンを進める。
- X線分光撮像衛星(XRISM)について、2021 年度の打上げを目指し引き続き開発を進める。
- 小型月着陸実証機(SLIM)について、2021 年度の打上げを目指し開発を進める。また、火星衛星サンプルリターン計画(MMX)について、2024 年度の打上げを目指してフロントローディングに取り組む。
- 戦略的中型計画 2 の候補ミッションの技術検討等を進めるとともに、深宇宙探査技術実証機(DESTINY+)といった公募型小型計画の具体化に向けた取組等を推進する。
- 欧州宇宙機関が実施する木星氷衛星探査計画(JUICE)への参画等、小型衛星・探査機やミッション機器の開発機会を活用した特任助教(テニュアトラック型)の制度を引き続き進める。

国際宇宙探査(工程表 27)

[2019 年度以降の取組]

- 米国が構想する月近傍の有人拠点(Gateway)への参画について、我が国の科学探査への貢献や地球低軌道における有人宇宙活動との関係にも留意しつつ、米国、欧州等も含めた国際調整や具体的な技術検討・技術実証を主体的に進める。
- 国際協力による月への着陸探査活動の実施等についても国際調整や具体的な技術検討を行う。

- 国際宇宙探査の実施に当たっては、引き続き、民間事業者とも連携しつつ進める。
- 小型月着陸実証機（SLIM）について、2021年度の打上げを目指し開発を進める。また、火星衛星サンプルリターン計画（MMX）について、2024年度の打上げを目指してフロントローディングに取り組む。【再掲】

<参考：宇宙産業・科学技術基盤部会関連>

国際宇宙ステーション計画を含む有人宇宙活動（工程表26）

[2019年度以降の取組]

- 日本実験棟「きぼう」の運用・利用及び宇宙ステーション補給機「こうのとり」の運用を着実に実施すると共に、アジアをはじめとする海外の利用強化を含むJP-US OP3の推進、民間事業者の参画、国際宇宙探査に向けた技術実証（軌道上実証）を進め、ISSの成果最大化を図る。
- 将来の宇宙技術・宇宙システムへの波及性・発展性を考慮しつつ、ISSへの輸送能力・運用性を向上し、費用対効果を最大化するHTV-Xの開発を着実にを行い、2021年度の1号機打上げに向けて詳細設計及びPFMの製作・試験を継続する。
- 低軌道における2025年以降の我が国の有人宇宙活動の在り方について、各国の検討状況も注視しつつ、民間活力の積極的な活用も含めて、月軌道での活動計画等を踏まえて2019年度に整理する。

国内の人的基盤の強化（工程表39）

[2019年度以降の取組]

- 宇宙科学・探査分野の人材育成を推進するため、引き続き海外人材の受け入れやクロスアポイントメント制度の活用等を通じて、人材交流・ネットワーク強化を図る。また、国際プロジェクトへの参加や小型・小規模プロジェクトの機会を活用した特任助教（テニユアトラック型）の制度により人材育成を引き続き推進する。